

Q2 気になる「条文」、「印象に残ったこと」、「今後生かしたいキーワード」等があったら書き出してください。その理由も。

A 利己と利他。美しい心が羅針盤。足るを知れば利己を抑えることになる。経営は利他行。道徳と経済の一体化が長期利益に繋がる。素直＝自分を変えていく力。勇＝人間として何が正しいか、道徳的判断。考える→考え抜く

島津いろは歌の「い」、どんなに良い教えを聞いても、自分で実践しなければ役に立たない。

A 経営理念の根つき度。認知→理解→共感、共鳴→行動 自社で考えると出来ていないと思った。
人生・仕事の結果の方程式＝考え方×熱意×能力

A 島津いろは歌を勉強したい。ベースは道徳＝人間観であることを再認識しました。12か条の体系図を使いながら、企業経営で重要なことを話せるようにしたい。
人生・仕事の結果の方程式は、以前研修で学びました。その時は「考え方」が最終のキーワードになっていましたが、今回、順序は最初に持ってくるものだと思って、改めて勉強になった。

A 経営者の心のあり方によって経営は決まる＝心の経営システム。人間の思いは必ず実現する。利他の心を学ぶには→足るを知ることが、まず利己を抑えることになる。経営理念は浸透させるものではなく、根付かせるもの。

A 私の考えのベースは「おもしろい」ことです。「利他」は他人が「おもしろい」と思って共有できることが、私の解釈かな？

A 企業は経営者の器以上に大きくならない→人間の器を大きくする作業が経営哲学をべんきょうすること。ということ。

A 従業員の幸せを第一義とする

A 「経営は利他行」という言葉が印象深い。経営の原型は「利己」、この二つをバランスをとり方向性を間違わせない内容にするのが、美しい心という羅針盤が重要である。

A 事業の目的（大儀）。根底にこれがなければ事業は成り立たない。美しい心を持つこと。言葉の定義→稲盛先生の言葉の意味は、論語ベースで読み解く。値決めが経営。数字を分析する

A 経営は利他行。燃える闘魂を持つとは、命をかけて従業員を守る覚悟を持っているか。誰にも負けない努力→思うだけでは成就しない。

A 誰にも負けない努力→足りない…私。思いだけでは経営は成り立たない。でも思いがなければ、何も生まれない。→私の思いは何だ？

A 2つの他力→周りからの応援があって実現する。一人では大したことはできない。

A 12か条の体系図がとてもわかりやすい。これをもとに、再度12か条を読んでみる。経営理念を根付かせる4つの段階について経営者と話そうと思った。

A 原因と結果の法則を読む。経営は利他と利己のバランス。倫理観を使う（自分にとって当たり前すぎた）

A 人間としてのあり方、心のあり方かが12か条が出発しているのが面白い。すべてがそこか！という感じ。「経営は利他行」はそのとおりだと思うし、それは自分を大事にすることと矛盾しない。
日本の八百万の神々と考え方と一致すると思う。